

アウトドア派／スポーツ派の増加。

前世代と比較してレジャー志向が強い団塊世代。10年後にはドライブやピクニック等のアウトドアレジャーに積極的で、スポーツを楽しむ「アクティブな60代シニア」が増えると思われる。アウトドア／スポーツ派の増加で、今までシニアの趣味だと思われていた囲碁や将棋等への関心は低下。

■アウトドアレジャーへの関心が高まる。

- ・男女共に、「ドライブ・ツーリング」、「ピクニック／ハイキング」への関心が高まる
- ・男性では、「1BOXワゴン」や「スポーツタイプ乗用車」への関心が高まる

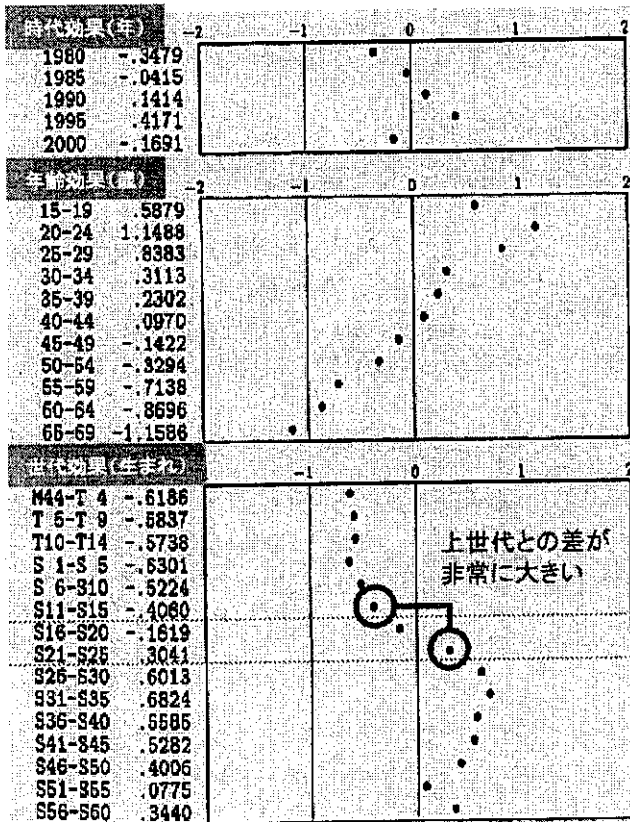
■スポーツ派&スポーツ好きが増える。

- ・男女共に、「ボウリング」が増加
- ・男性では、「スキー」への関心が、女性では「水泳」への関心が高まる

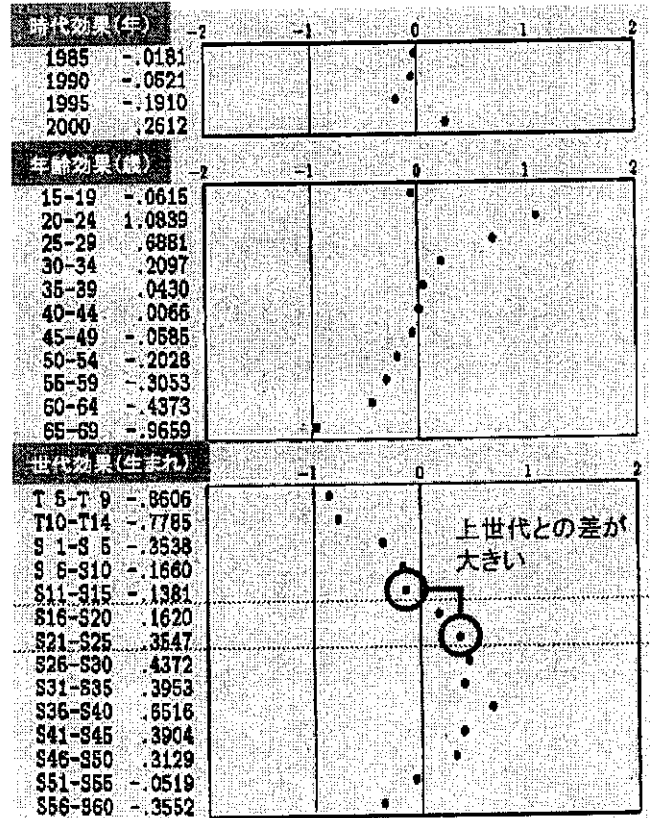
■昔ながらのインドア系の趣味は大幅ダウン。

- ・新聞記事や雑誌記事では、「囲碁／将棋」に対する男性の関心が大きく減少

◇最近一年間にスキーをした(男性)



◇最近一年間にドライブ・ツーリングをした(女性)



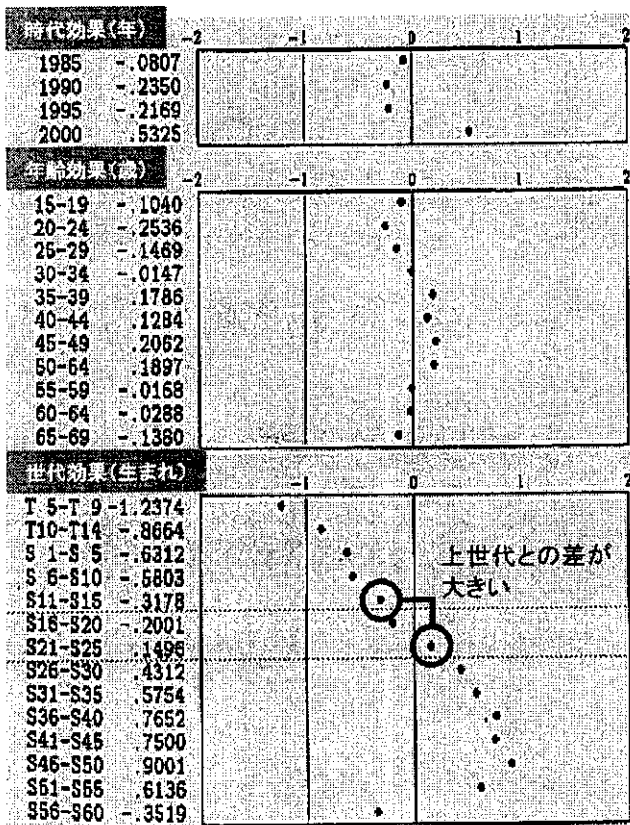
デジタル化の浸透。

10年後の60代シニアは、日常生活でパソコンを使いこなす、そんな「デジタル化社会に対応するシニア」になると思われる。娯楽においても、今までのシニア世代とは異なり、家庭用テレビゲームやゲームセンターでのデジタル系の娯楽ツールを気軽に楽しむことが予測される。

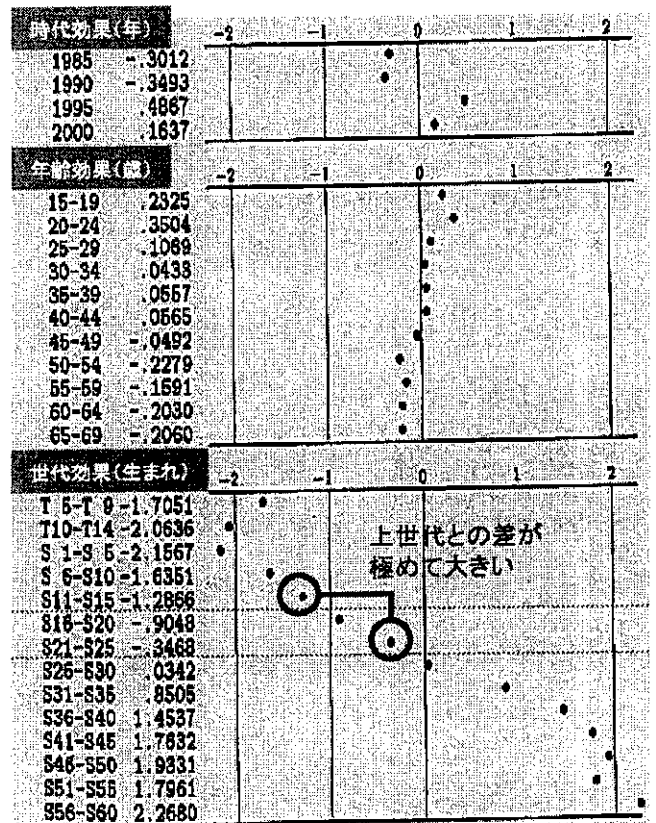
■デジタルゲームやパソコンがシニア家庭にも浸透する。

- ・「パソコン」や「家庭用テレビゲーム」は、団塊世代の男性で大幅に増加
- ・団塊世代では、男女共に「ゲームセンター」への関心も高まる

◇パソコンの広告に関心がある(男性)



◇最近一年間にゲームセンターにいった(女性)



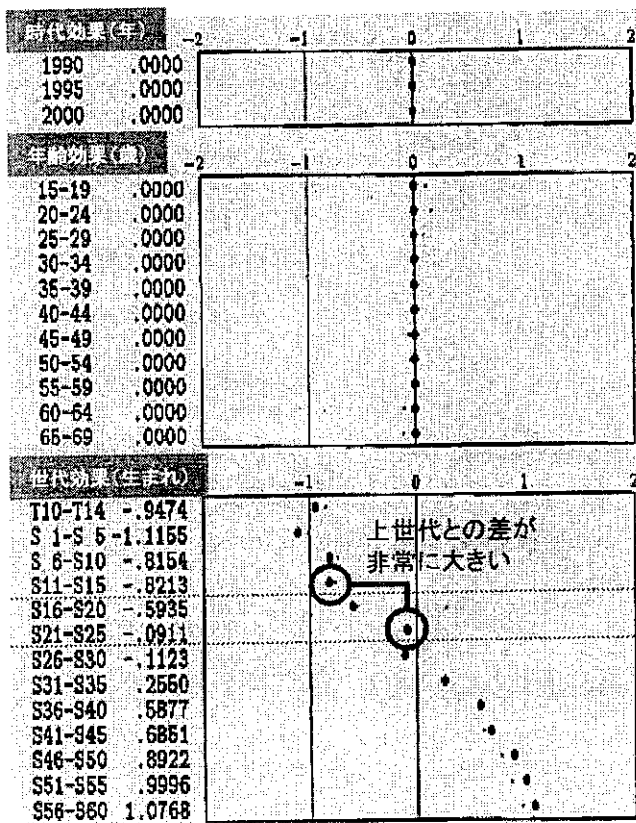
グローバル志向の日常化。

外国文化への関心が高い団塊世代。このまいくと、シニアでも日常会話レベルの英会話は話せたり、外国人の友人がいたり、普段の生活の中で外国の人や文化と気軽に交流する人が増加。海外の文化や情報に対する関与度が高い、「グローバル志向のシニア」が誕生する。

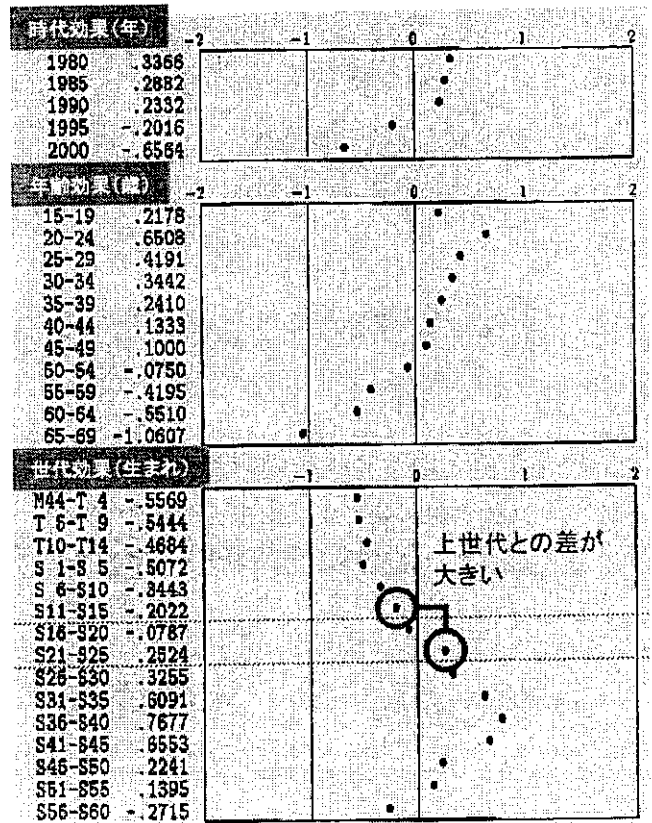
■男女共に、海外への関心は増加&定着する。

- ・男女共に、「日常会話ぐらいは英語で話せる」、「洋画TV」が増加、定着
- ・男性では、「海外のポップスがよくなる番組(ラジオ)」、「外国のテレビドラマ(テレビ)」が増加、定着
- ・女性では、「外国人の友人がいる」、「雑誌の海外特集記事に関心がある」が増加、定着

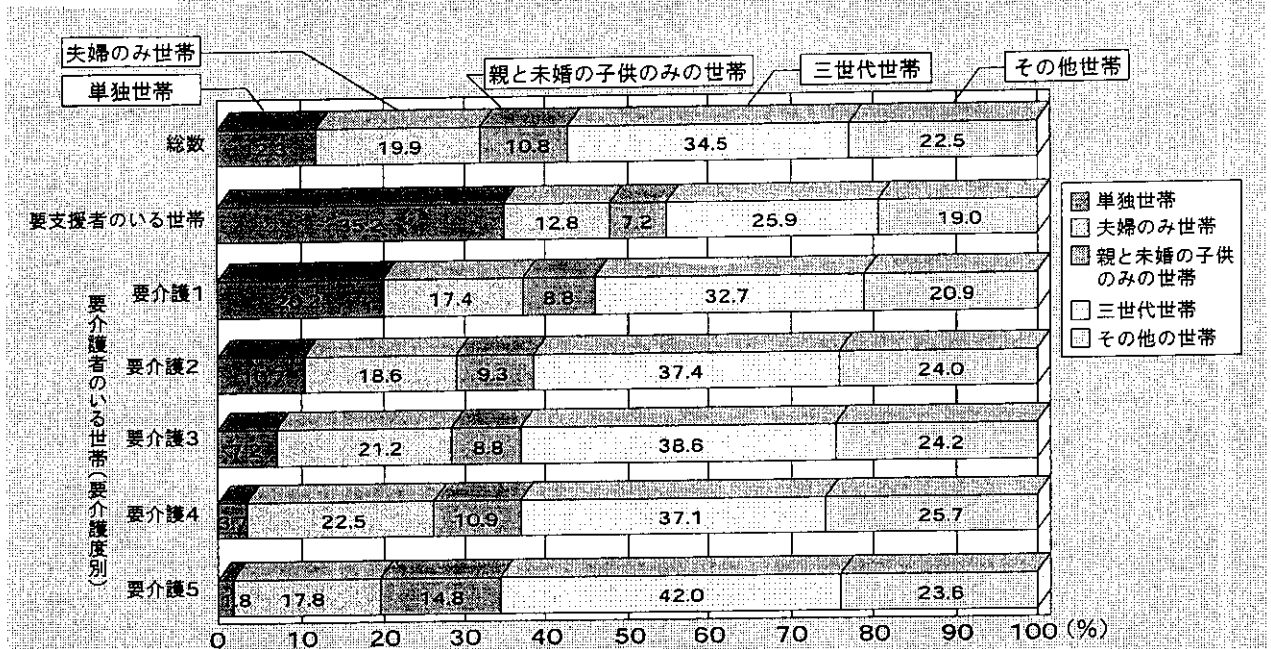
◇日常会話ぐらいは英会話で話せる(女性)



◇海外のポップスがよくなるラジオ番組が好き(男性)



手助けや見守りを要する者のいる世帯の世帯構造(65歳以上)



資料:厚生労働省「介護サービス世帯調査」(平成12年)

注:1世帯に複数の手助けや見守りを要する者がいる場合は、要介護の程度が高い者のいる世帯に計上した。

総数には、その他の者のいる世帯(認定されない、認定状況不詳、認定審査中、申請していない、申請状況不詳の者のいる世帯)を含む。

「要介護者」とは、介護保険法の要介護と認定された者((1)要介護状態にある65歳以上の者、(2)要介護状態にある40歳以上65歳未満の者であって、その要介護状態の原因となった心身の障害が特定疾病によるもの)をいう。「要支援者」とは、介護保険法の要支援と認定された者((1)要介護状態となるおそれがある状態にある65歳以上の者、(2)要介護状態となるおそれがある状態にある40歳以上65歳未満の者であって、その要介護状態となるおそれのある状態の原因となった心身の障害が特定疾病によるもの)をいう。

(介護家族の続柄と年齢)

要介護者等からみた主な介護者の続柄をみると、妻、息子の妻及び娘の割合が高い。要支援以上の者の主な介護者のうち、妻が20.8%、息子の妻が27.7%、娘が19.0%となっており、これらを合計すると67.5%と主な介護者の3分の2を占める。これらの者が主な介護者である割合は、要介護度が

上がるにつれて上昇する傾向にあり、要介護1では62.6%であるのに対し、要介護5では75.2%になっている。

一方で、男性が主な介護者となっている割合は18.6%となっている。夫と息子はほぼ同じくらいの割合となっているが、娘の夫は1%未満と少ない